

中国語指示詞の文脈指示についての再考

—— 日本語指示詞コソアへの対応と関連して ——

路 玉昌

Another study on the anaphora in Chinese demonstrative pronouns

— Related to the corresponding Japanese counterparts “ko” “so” and “a” —

LU, Yuchang

Abstract

The aim of this paper is to revise the paper entitled “A study on the anaphora in Chinese demonstrative pronouns” written in 1999, and to make it clear semantically and pragmatically how the Chinese demonstrative pronouns “这” and “那” are properly used. Moreover to add how different they are from the corresponding Japanese counterparts “ko”, “so” and “a”.

Key words : ① demonstrative pronouns (“zhe / na”) ② anaphora ③ antecedent ④ ko/so/a)

キーワード : ①指示詞 (“这/那”) ②文脈指示 ③先行詞 ④コソア)

はじめに

現代中国語の指示詞は近称の“这”と遠称の“那”の二項対立形式からなり、その使用状況は複雑である。にもかかわらず、中国の学会ではいまだ関心が低く、日本では、現場指示の研究は多いが、文脈指示の研究は少なく、“这”“那”の使用原理とその使い分けは十分に解明されているとはいえない。

本稿は、意味論的及び語用論的見地から、1999の拙稿を見直し、さらに日本語指示詞コソアへの対応と関連して、中国語指示詞“这”“那”の、文脈指示における使い分けとその要因を再考したものである。日本語指示詞コソアへの対応を検討する目的は、中国語話者を対象とする日本語指示詞教育の一助を提示することである。中国語話者は日本語習得の際、中国語の“那”系の影響も受けるが、特に“这”系の

影響を強く受けると筆者自身も感じ、また体験してきた。“这”系が程度の差はあっても、日本語のコソアの全てに対応するからである。しかも実際、中国語話者が学習期間が長くなっても日本語のコ系指示詞を中国語“这”系指示詞と同様に使用するというコ系文脈エラーが減少しない¹⁾という迫田久美子(1998)の調査研究結果も出ている。従って、“这”“那”の日本語指示詞コソアへの対応の検討も中国語話者に対する日本語指示詞の教育にとって有益である。

本稿は張賢亮の〈男人的一半是女人〉(男の半分は女)²⁾を考察対象とするが、必要に応じて他の作家から例を引用することもある。なお、“这”“那”及びその語群は____で、その指示している内容は波線~~~~で示した。また、例文には丸付き数字が付いたものがあるが、そ

れは便宜上付けたものである。

1. “那” が用いられる場合

この“那”について、中国の一般の文法書では、現場指示と文脈指示とをひっくるめて“遠指”（遠いものを指す）と説明される。一口に「遠いもの」と言っても運用実態を見てみると日本語の遠称のアに対応するものもあるし、中称のソに対応するものもあり複雑である。従って「遠い」という認識に与える意味論的条件あるいは語用論的条件の明示が非常に重要で、また有益なのである。

本節では、こういった問題意識をもって実例に基づき、“那”の使用状況を考察する。

1. 1 前出の過去の出来事などを指す場合

一アに対応するもの一

小説などにおいて、その流れのある時点に描出済みの過去の出来事などを挿入したりする場合がある。それは、“那”が使用される時の流れの現時点以前のものなので、過去のことになり、「遠いもの」となるわけである。このように、挿入されたものを指示するのに“那”が用いられるのである。これが「遠いもの」の典型的な用法の一つである。

(1)我们互相用眼色打着招呼：“你早！”“你好！”“你早晨吃饱了吗？”“还凑合！”…… (p.24) [中略 (約130字)] 在她走到我旁边，要和我擦身而过的那一刹那，她却突然举起手中的镰刀，在我脸前晃了一下，同时用只有我听清的语声，迸出这样狠狠的一句话。“我恨不得宰了你！”我还没有反应过来，她头也不回地走掉了。[中略] 我等了半天，等的是这样一句话。我们用目光交流的那些无声的话语，全是我自己的想像！ (男 p.24)³⁾

私たちは目と目で挨拶を交わした。「おはよう」「こんにちは」「朝御飯は腹いっぱい食べたの」「とりあえずね」……。 [中略] 私のそばまで歩いて来て、私とすれちがうその瞬間、彼女は突然手にした鎌を振り上げ、私の顔の前で

ひらめかしたかと思うと、私にだけ聞きとれる低く押さえ殺した声で、はげしい言葉を投げつけてきた。「殺してやる！」答える間もなく、彼女は振り向きもせずにさっさと通り抜けて行った。[中略] さんざん待ったあげくのはてに、もらった言葉がこれだった。ふたりが目で交わしたあの無言の会話は、みんな私自身の勝手な想像にすぎなかったのだ。

(2)她却突然举起手中的镰刀，在我脸前晃了一下， (p.24)。[中略] 今天，我终于又见到你了！[中略] 她那强有力的一划，那无声而又大胆的呼唤，对此我虽然没有如她那样勇敢地作出反应，却象是我被她奸污了似的，从此失去了我的童贞，尽管我现在三十九岁了还是童男子。(男 p.32)

彼女は突然手にした鎌を振り上げ、私の顔の前でひらめかしたかと思うと [中略]。今日、やっと君に会えたのだ！ [中略] 彼女のあの力強い鎌のひと振り、あの無言の大胆な呼びかけに、私は彼女のように大胆に反応はしなかったが、私は彼女にげがされてしまったような気がした。以来、私の童貞は失われたのだ。三十九歳にして、いまだに童貞でいる私であっても。

(1)、(2)の指示対象はいずれも「私（“我”）」が過去に経験した事で、その事柄は前にすでに描出されている。(2)について説明すれば、指示対象の「举起手中的镰刀，在我脸前晃了一下」は、“我们再次相遇，已是八年之后了。” (p.25) (私たちがふたたび出会ったのは、8年後のことだった。)とあるように、8年前の出来事で、それを回想の形で展開中の小説に挿入しているわけである。そしてそれを指示するのに“那”が用いられている。このことから、小説に挿入した描出済みの過去の出来事などは、「遠いもの」と判断する基準の一つになると言えるのである。

(3)还有这一床花被子，被面绣的是两台带着犁铧的拖拉机 (p.46) [中略] 现在，我盖我原来的被子，她盖她原来的被子，我俩结婚时新缝的①那床绣着拖拉机的被子放在我们

兩人中間，成了分界線的標志。紅彤彤的，正是一種警告的顏色（p.57）〔中略〕灵巧の手很快将我全身的湿衣裳扒得精光，拉开②那床绣着拖拉机的被子压在我身上。

（男 p.72）

それにこの掛けボタンときたら、表にプラウを牽いた二台のトラクターを刺繍してあった。〔中略〕いまでは私は、私の昔からのフトンを掛け、彼女は彼女で、昔からのフトンを掛け、二人が結婚したときに新しく作ったあのトラクターの刺繍をしたフтонは、二人の中間に置かれて、境界線を示す目印となっていた。真っ赤な色で、まるで赤信号そのままだった。〔中略〕両手で素早く私の全身から濡れた衣類をスッポリ剥ぎ取ると、あのトラクターを刺繍した掛けボタンをひっぱずし、私の軀に巻きつけた。

(3)の②、③の「那床绣着拖拉机的被子」は、その場に存在し、しかもいずれの場合も、主人公の「私」の近くにあり、そのため、空間的に「近いもの」と認められ“这”で指示するはずであるが、②の直前に「二人が結婚したときに新しく作った」とあるように、時点が過去であるという点では、(1)、(2)と全く同じで、「遠いもの」である。

(1)～(3)における“那”の用法は、過去のことを回想する場合に用いられる。

日本語指示詞のアの「直接体験に基づく『語り』の世界を作っている」⁴⁾用法と同じである。日本語指示詞のアには「話し手が」「過去に属する事柄」を「思い出として」「語るような」用法がある⁵⁾。過去のことなので、心理的に時間のいっそう大きな距たりがあると捉えられるからである。上記の“那”の用法は、日本語指示詞遠称のアのその用法と全く同じである。

1. 2 指示対象がその場がない場合 —— コソアのいずれにも対応しないもの ——

以下の(4)、(5)のように指示対象がその場にならない場合は、“那”が用いられる。指示対象がその場にならないため、「遠いもの」と認識されるからだと考えられる。この場合、指示詞の“那样”は日本語のコソアのいずれにも対応せず、「～のように」あるいは「～みたいに」と訳されるのである。

(4)这些傢伙们把窝筑在高大茂密的芦苇丛里，进进出出当然不能象直升飞机那样直起直落，〔后略〕（男 p.20）

このバカ者たちは、高く密生した葦の茂みのなかに、巣づくりをした。出入りにはもちろんヘリコプターのように垂直にのぼり降りできない〔後略〕

(5)“苦啊——”

还离得很远，她就象京剧老旦那样悠扬地长叹一声。（男 p.91）

「ああ、つらいつらい！」

まだ遠くから、彼女は京劇の老け女形みたいに、悠長な溜息をつく。

指示対象がその場にある場合は、状況が変わってくる。次の(5)を参照されたい。

(5)在你走后，我恐怕也将走了。我不能象你这样等着被人用鞭子再赶进监狱，而各种迹象表明，那样的时刻又快到了，〔后略〕（男 p.82）

おまえが去ったあと、私もやがて去るだろう。私はおまえのように鞭打たれてふたたび監獄に送りこまれるのを待っているわけにはいかぬ。そのときがもうすぐ来ることを、いろいろな兆しが物語っている。

(5)のように、指示対象がその場にある場合は、その指示対象を指示するのに“这样”が使われる。日本語訳は、上記(4)、(5)と同じで「～のように」あるいは「～みたいに」である。

1. 3 指示対象が第一人称以外の登場人物の身体の一部である場合 — ソに対応するもの —

(6)她有着一张容光焕发的脸，在那张脸上丝毫找不出来一点羞愧，于是我反而脸红了。（男 p.24）

彼女は明るい顔付きで、いささかも恥じらいの色はなく、かえって私のほうが顔を赤らめてしまうほどだった。

(7)她说着，有意地把额前的一绺头发从廉价的尼龙纱巾中扯下来，并翻起眼睛看了看那绺头发。（男 p.27）

彼女はそういいながら、ひたいの髪の毛を安物のナイロンスカーフからわざわざ引きずり出し、上目づかいにその髪を眺めている。

第一人称以外の登場人物の体の一部分を指示するのに“那”が用いられる。それは、客観的にその指示対象が捉えられ、自分の領域のものでないため「遠いもの」と認識されたからと考えられる。登場人物の持ち物なら“这”でも指示できる。次の例を参照されたい。

(7)她手呈拿着一把镰刀。这是用来割草的。（男 p.24）

彼女は手に鎌を持っていた。これは草刈り用である。

また、登場人物の体の一部分であっても、内言的な場合、“那”ではなく、“这”で指示する。次の例を参照されたい。

(7)我从口袋里掏着烟，眼睛看着马老婆子的脸。这是一张什么样的脸啊！（男 p.24）

私はポケットからタバコをとり出しながら、目は馬婆さんの顔にそそいでいた。これはいったいなんという顔だろう。

第一人称以外の登場人物の体の一部分を指示するのに“那”が用いられる。そしてこの“那”は日本語のソで訳されるが、日本語のソの場合、体の一部分だけではなく相手領域の全てを指すことができるが、中国語の“那”の指示領域はかなり制限されている。

1. 4 作者あるいは登場人物が見たもの — ソに対応するもの —

(8)晓遇和思琳都走到沙发前，她俩拿起裤子一看，不由得同声大笑起来，那裤子已成了开裆裤。（北 p.66）

晓遇も思琳もソファの前に近寄って、ズボンを持ち出してみた。と、思わず同時に笑い出した。そのズボンの後ろの股あたりが完全にほころびてしまった。

(9)嵌在荒滩中的空荡荡的晒谷场上，陡然出现了十几个高高的稻垛。远远地望去，那金黄色的庞然大物，宛如一座座古代的石砌建筑，耸立在一望无际的平坦的田野当中。（男 p.73）

河川敷のど真ん中につくられた、だだっ広い干場に、突如としてこんもりとした稲むらがずらりと出現した。遠目には、その黄金色大きな図体をしたものが、まるで古代石造建築群のように、見渡すかぎり平坦な田野に聳え立って見えた。

(10)从这里可以看到大路的尽头：在蓝色的天空下的一个小黑点。那就是喧嚣的城市，正在向人们猛烈开火的城市。（男 p.97）

ここからは道の行き着く果てが見渡せた。藍色の空の下の小さな黒点。それが喧騒にみちた都市だった。人びとにも猛烈な攻撃をしかけている都市。

(8)~(10)の先行詞のある文／部分の文法的構造は、いずれも“(S)・V・O”構造であり、そして____部の先行詞は“S・V・O”構造の“O”である。また、指示詞のある文は、作者または登場人物が近くあるいは遠くで見ている指示対象の状態・様子あるいは属性を表現したものである。

このように、指示対象が可視出来るもので、しかも先行詞が先行詞のある文／部分において“S・V・O”構造の“O”となっている場合、“那”が用いられる。この“那”はソに対応する。

(11)冯晓斜眼看看她：“有水的，档次高

的”。说着把一叠钱递了过去。老板娘眉眼顿开，会意地朝吧台底下固定矮座上的一个女孩儿努了努嘴，那个女孩儿立刻站起身，〔后略〕（北 p.99）

馮驍は横目でママさんを睨み、「セクシーで綺麗で品のあるのを。」と言いながら一束のお金を渡した。ママさんは、上機嫌になり、その旨を悟ってカウンターの内側の低い椅子に座っている一人の女に口を突き出して知らせた。その女は、すぐ立ち上がって、〔後略〕

(12) 一个偶然的机会，他认识了一个朋友，〔中略〕彭东东向他询问起方晓遇，那人对方晓遇的人品、修养、素质、能力是赞不绝口，〔后略〕（北 p.333）

ある日、偶然に彼は一人の人と友達になった。〔中略〕彭東東は、彼に方曉遇のことを尋ねた。その人は曉遇の人柄や修養や資質及び能力を絶賛した〔後略〕

(11)の先行詞の“一个女孩儿”が“老板娘”に口を突き出して知らされ、(12)の“一个朋友（他）”が“彭东东”に方曉遇のことを尋ねられた。つまり「ままさん」と「彭東東」はアクションを起こした方で、「一人の女」と「一人の人」はアクションを起こされた方である。話者は、アクションを起こした方を「近いもの」、アクションを起こされた方を「遠いもの」と認識していると考えられる。このようにアクションを起こされたものを指示するのに“那”が用いられるのである。この場合の“那”は、日本語のソに対応する。この“那”と同じ用法のソの用例を次に挙げておく。

(12) 或る日、五位が三条坊門を神泉苑の方へ行く所で、子供が七八人、路ばたに集つて何にかしてゐるのを見た事がある。

〔中略〕そこで出来るだけ、笑顔をつくりながら、年かさらしい子供（こども）の肩を叩いて、「もう、堪忍してやりなされ。〔後略〕」と声をかけた。するとその子供はふりかへりながら、上眼を使つて、蔑す

むやうに、ぢろぢろ五位の姿を見た。

（芥川龍之介「芋粥」）

(13) 冯晓笑起来，他从抽屉里取出一个①小盒：「〔前略〕我早就给你买了一套首饰，

〔後略〕」说着冯晓就把②那首饰给晓遇戴上了，〔後略〕（北 p.266）

馮驍は笑いながら引き出しから小さいケースを一つ出して言った。「〔前略〕とくに前から君にアクセサリを買って置いた。〔後略〕」と。そして馮驍はそのアクセサリを曉遇に付けてやった。

(13)は、(11)、(12)と異なって、同一の人物が同一のものに二つのアクションを起こしている。つまり、一つは「出す」で、今ひとつは「付ける」である。最初のアクションを起こされた指示対象の“小盒”を指示するのに“那”が用いられるのである。そしてこの場合、(11)、(12)と同様の原理で日本語のソに対応する。

1. 5 代行用法 — ソに対応するもの —

(14) 《浏阳河》只是配上了词才成为歌颂伟大领袖的歌曲，而那谱子，纯粹是湖南的民歌调。那不太宽的音域和跳动较小的音程，平稳地表现出了忧郁和哀思的抒情性。（男 p.33）

「瀏陽河」は歌詞をつけなければ、偉大な指導者を誉め称える曲にはならず、そのメロディーは純然たる湖南の民謡風だった。あまり幅のない音域と躍動感の少ない旋律は、憂いのこもった哀切なりリズムをたんと表現していた。

(15) 我茫然地望着用报纸糊的顶棚。那上面是一片密密麻麻的文字。但是没有一行是解释生活和指导人们应该怎样生活的。

（男 p.86）

私は新聞を張った天井をぼんやりと眺めていた。そこにはびっしりと字が並んでいたが、生活について説明し、いかに生きるべきかについて手引きとなるようなことは、一行も書かれてなかった。

(14)、(15)の指示詞の先行詞と指示詞の直後にある語句との関係は、以下の如くである。

先行詞と指示詞の直後にある語句との関係

	先行詞	指示詞の直後にある語句	那Nの実質的な意味
	《浏阳河》	谱子	《浏阳河》的谱子
(14)	那谱子 (《浏阳河》 谱子)	不太宽的音域和跳动较 小的音程	《浏阳河》谱子的 不太宽的音域和跳 动较小的音程
(15)	顶棚	上面	顶棚上面

先行詞と指示詞の後にある語句との関係は、修飾と被修飾の関係にある。つまり、先行詞は指示詞の後にある語句の連体修飾語である。

このように、先行詞が指示代名詞の後の語句の連体修飾語であるパターンの文では、“那”が用いられ、そしてそれが日本語のソに対応する。

2. “这”が用いられる場合

中国語指示詞の“这”について、「話し手にとって近いものを指す」と辞書や文法書では説明されている。文脈指示においても「近いもの」という認識に与えるものとして空間的、時間的、心理的距離感が考えられるが、讃岐(1988)が指摘したように「中国語の物語、小説、歴史叙述などの文章では、指示代名詞の指示対象の存在位置と話し手もしくは作者の視点との距離は、anaphoric usageにおいては、しばしばあまり問題にならない」⁶⁾。前述の1. 2～1. 5の“那”が用いられる諸パターンを除いて、文脈指示の“这”は、その直前あるいは少し前に話し手あるいは作者によって提示された指示対象を指示出来る性質を持っている。この“这”は、日本語のコソアのいずれにも対応する。次にコソアへの対応のパターン別に考察を進める。

2. 1 コに対応するもの

2. 1. 1

先行詞が小説などの登場人物となる場合、その指示対象を指す“这”はコに対応する。(16)、(17)はその例である。但し、1. 4で取り上げた(11)、(12)の相手のアクションに対してリアクションをした人を指す場合は“那”が用いられる。

(16)我不走开，还有一层意思，就是以为他还会

给我透出什么外面的信息。和我曾经认识的谢队长相似，这个干瘦的劳改干部其实是个心地善良、爱说爱笑的好人。(男 p.7)

私が立ち去らなかったのには、もうひとつ別な理由があった。つまり彼が外部のニュースをなにかもらしてくれるのではないかと心ひそかに期待していたからなのだ。かつて私の知り合いだった謝隊長もそうだったが、この痩せこけた「劳改」幹部は、実は善良な人間であった。話し好きでよく笑う好人物であった。

(17)我看见她干瘪的失神的眼睛朝着天怒目而视。我用食指和中指去摩挲她的眼睑，但这个已经变成一根枯朽的木柴棍的神婆子，眼皮居然还保持着弹性。(男 p.17)

焦点を失った、干からびた目がはったとばかり天を睨んでいた。私は人差し指と中指で目蓋を撫でたが、意外にもこの枯木のように朽ちてたイタコ婆さんの目蓋はまだ弾力性を持っていた。

2. 1. 2

(18)①田管组员扔完了黄瓜西红柿，似乎尚未尽兴，脸上还挂着顽皮的笑容。②本来应该哭的，然而却是笑，这究竟是人性的弱点还是人性的坚强？(男 p.17)

組合員たちは胡瓜やトマトを投げ終わっても、まだ興味が尽きないようすで、顔にはいたずらっぽい笑顔が残っている。本来泣くべきことなのに笑っている。これはいったい人間性の弱点なのか、それとも強さなのか。

(19)我终于又见到你了！这莫非是天意？

(男 p.9)

僕はとうとうきみに再会できたのだ！これは天の引き合わせなのか？

(20)①我从口袋里掏着烟，眼睛看着马老婆子的脸。②这是一张什么样的脸啊！

私はポケットからタバコをとり出しながら、目は馬婆さんの顔にそそいでいた。これはいったいなんという顔だろう。

(18)の②、(19)、(20)の②は、いずれも作者あるいは“我”が自問する内言である。この場合の“这”はコに対応する。

2. 1. 3

(21)经过王队长身边，王队长会发出他这样的赞叹：“哎呀，你这婊子儿，比驴还能驮！”

(男 p.8)

(21)は、発話内容が後方にある例である。発話内容／思考内容が後方にある場合、その発話内容／思考内容を指示するのに“这”が用いられ、その“这”はコに対応する。

2. 2 ソに対応されるもの

2. 2. 1

(22)她把重音放在“人”字上。这表明她“思谋”的不是她丈夫。她是在“思谋”人的本质、人的本性、人的意义。(男 p.30)

彼女は“人ってもん”に力を入れていた。それは彼女が“考え”ているのが、たんに夫のことではなく、人間の本質、本性、人間というものの意味であることを示していた。

(23)很多女犯边走边唠还没有成熟的葵花籽，用死鱼似的白眼斜睨我们，似乎还很洋洋自得，又仿佛这就是她们卖弄风情的一种方式。(男 p.18)

ほとんどの女囚は歩きながら熟しきってないヒマワリの種子を噛み、死魚のような白い目で、われわれを斜めに睨んだ。そうしたそぶりは、ひどく得意満面といったように見えたが、それこそが彼女たち流の媚びを売るやり方なのかもしれない。

(24)周瑞成站起来，肩膀耸了耸，将大衣披好。这一动作颇有军人风度，我仿佛看到了二三十年前他的英俊潇洒。(男 p.84)

周瑞成は立ち上がると、肩を揺すってオーバーをきちんとはおり直した。その動作には軍人らしさがみなぎっていて、二、三十年前の彼の颯爽たる姿を見たような気がした。

(22)～(24)における先行詞は全て相手のものか自

分領域外のものであるが、1. 3で取り上げた第一人称以外の登場人物の体の一部分以外の場合、“这”で指示できる。日本語では、自他の領域がかなりはっきりしているため、この場合の“这”はソに対応するのである。

2. 2. 2

(25)是的，要是白天接着下雨就好了，这样犯人可以在号子里蒙头睡上一天。(男 p.24)

そうだ、昼も降りつづけばよかったのだ。そうすれば、囚人たちは収容所のバラックのなかで、頭からフトンをかぶって寝ていられたろう。

(26)她每天在我身边晃来晃去。她是高傲的。她是放进斗兽场中的一只矫健的雌兽。她等待着我去征服她。但是，我头一天晚上就感觉到了，察觉到了，明白无误地知道了，我已经失去了这种能力。(男 p.51)

彼女は毎日私の身辺を行ったり来たりする。傲然として。彼女は闘技場に放たれたのびのびとすこやかな雌の野獣だ。彼女は私に征服されるのを待っている。しかし、私はあの最初の夜に感じたのだ、気付いたのだ、間違いなくわかったのだ、私にはもうそうした能力が失われていることを！

(25)の先行詞の“要是白天接着下雨”は仮定で、(26)の先行詞の“征服她”は未実現のことである。このような指示対象を指す場合の“这”はソに対応する。

2. 2. 3

(27)妇女走后，多嘴的人告诉月儿，这个女人名字叫徐翠。(家 p.206)

女が帰ってから、口出し好きな人はその女の名前は徐翠だと月に教えた。

(28)方晓遇走了，李慕仁忽然觉得很累，一种说不出的累！他突然不愿再去想这个女人了。

(北 p.87)

方晓遇が帰ってしまうと、李慕仁は急に疲れを覚えた。それは何とも言えぬ疲れであった。その時、彼はその女のことをもう考えまいと思った。

(27)は“妇女走后（女が帰ってから）”、(28)は“方晓遇走了（方晓遇が帰ってしまった）”とあるように、指示対象はその場にはない。指示対象がその場にはないが、先行詞は指示詞の直前、或いは近い先行文にあるから、“这”の使用原則に合致するのである。この場合の“这”は日本語のソに対応する。

2. 3 アに対応するもの

(29) “姑老爷，他刚才陪着袁先生在这里品茶呢。”

“嗨，这两个人懂得什么品茶！”（讚井 1988年論文より）

「おじいちゃん、彼は先ほど袁とここでお茶を賞味していたよ。」

「ふん。あの連中に茶の味などわかるものか！」

(29)における“这”の使用は、本節で取り上げている“这”の使用原則に基づいたものである。なぜなら、指示対象の“他”と“袁”は、“这”の直前にあって、しかも、それが前述の1. 2~1. 5の“那”が用いられる諸パターンの文ではないからである。指示対象について話し手と聞き手が共通の知識を有しているため、この“这”は日本語のアに対応するのである。なお、この“这”の使用原則は、前述の2. 2. 3のそれと全く同じである。この“这”の使用について、讚井（前掲）は「指示対象が話し手の感嘆や非難的になっている」からと述べているが、事実は氏の指摘と異なる。(27)では「多嘴的人」が「这个女人」に、また(28)では、「李慕仁」が「这个女人」に対して感嘆や非難の気持ちを持っていない。従ってこの場合“这”が使用出来るのはこの第2節の使用原則によるものである。

3. 時が指示対象となる場合の“这”と“那”

(29) 一阵强烈得使我晕眩的冲动过去，习惯性的克制逐渐占了上风。这时，我在她的眼睛里，在她微微哆嗦的肌肤上，蓦然看到了一种可怕的痛苦， [後略]（男 p.22）

目のくらむほどはげしい衝動が過ぎ去り、いまは習慣となって身についてしまった

自制心がだんだんと優勢を占めてくる。と、そのとき、私は彼女の目のなかに、かすかにふるえる肌に、だしぬけに恐ろしい苦痛を見、[後略]

指示対象が過去の時点であっても、時の流れに従った叙述であれば、その時点を目指すのに“这”が用いられ、その“这”が多くの場合ソに対応し、少量ではあるが、コに対応する場合もある。

(30) 他的家还跟一年前我来时一模一样。只是他那时盖的小厨房已经有些残旧了，墙皮被那场大雨淋得露出了黄的麦秸。（男 p.94）

彼の家のようすは、一年前に来たときとちっとも変わっていなかった。ただ彼があのとき建てた台所だけが少し古くなって、壁はあの大雨で濡れそぼって黄色い麦ワラがむき出しになっていた。

(31) 但是，在远处，你根本看不出她们是女人。

[中略] 一九六六年以前，我刚被押进劳改队的时候，在谷场上劳动，远远地我还能分得清男女，因为那时候还允许女犯扎辫子。

（男 p.17）

1966年以前、私が労働改造隊に入れられたばかりの頃には脱穀場で働いていても、遠くからでも男女の見分けがついた。その頃は、女囚におさげ髪を結うことを許していたからだ。

(32) 在你走后，我恐怕也将走了。我不能象你这样等着被人用鞭子再赶进监狱，而各种迹象表明，那样的时刻又快到了， [后略]

（男 p.82）

おまえが去ったあと、私もやがて去るだろう。私はおまえのように鞭打たれてふたたび監獄に送りこまれるのを待っているわけにはいかぬ。そのときがもうすぐ来ることを、いろいろな兆しが物語っている。

(30)、(31)における指示対象は、過去の経験を回想した形で挿入されたものである。(32)のそれは、未来に発生するであろうことである。このように回想された過去の時点／未来の時点を指

示するのに、“那”が用いられるのである。そして、未来の時点指示の“那”はソに対応するが、指示対象が回想の過去時点である場合、(30)、(31)のように、アに訳されたり、ソに訳されたりしている。その違いは、時点の遠近によるものではない。(30)の指示対象の時点は、「1年前私が来た時」で、(31)のそれも、1967年のある時点の事の展開中に「1966年以前、私が労働改造隊に入れられたばかりの頃」の事を挿入したもので、少なくとも1年くらい前の事で時点の

遠近の違いがさほどないからである。その違いは、指示対象となる過去の時点の出来事についての前述があるかないかである。(30)の指示対象となる“一年前我来时”について、原文の38頁に“罗宗祺两脚悬空地骑在大梁上。他在盖他家的小厨房”と前述されている。この場合は読者と共有の知識を持っているからアに対応するのである。これに反して(31)には指示対象となる過去の時点の出来事についての前述がない。故にソに対応するのである。

結 び

意味論的および語用論的見地から、1999年の拙稿「中国語指示詞の文脈指示について」を見直し、さらに日本語指示詞コソアへの対応と関連して、中国語の指示詞“这”“那”の文脈指示における使い分けとその要因を再考した。その過程で日本語指示詞を中国語へ、中国語のそれを日本語に訳す場合、指示語の省略が多く見られた。省略する場合の文の構造的な特徴等の研究は、日本人学習者を対象にした中国語教育あるいは中国人学習者を対象にした日本語教育にとって、また重要である。それを今後の研究課題としたい。

注

注1：迫田久美子『中間言語研究日本学習者によるコ・ソ・アの習得』溪水社、1998、185頁。

注2：張賢亮＜男人的半是女人＞の版本等は例文引用文献に示されるとおりである。なお、その日本語訳は、北霖太郎訳『男の半分は女』（二見書房、1986）による。他の用例の日本語訳は筆者による。

注3：この場合の（ ）内は本稿末に示した例文引用文献の略記号と頁である。

注4：金水敏・田窪行則 1990「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展』94～95頁。

注5：坂田雪子 1971 136頁を参照。

注6：讃井唯允 1988 「中国語指示代名詞の語用論的再検討」『東京都立大学人文学報』198、10頁。

<例文引用文献>

(男) 張賢亮 <男人的半是女人>《收获》1985年第5期

(北) 良 妮 《北京女人》 作家出版社 (1997)

(家) 刘庆帮 <家属房>《懒得离婚》青島:青島出版社 (1994)

<参考文献>

呂叔湘 1981《現代漢語八百詞》商務印書館

同 上 1985《近代漢語指示詞》学林出版社

石井誠 1998「日中対照指示詞の研究」『国文学解釈と鑑賞』第63巻1号

路玉昌 1999「中国語指示詞の文脈指示について」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第9号

路玉昌 2000「コ・ソの文脈指示について——発話内容が先行表現となっている場合——」『日本と中国ことばの梯 佐治圭三教授古稀記念論文集』くろしお出版

路玉昌 2001「小説・童話におけるコノ・ソノの文脈指示について」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第11号

金水敏・田窪行則 1990「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展』3 講談社サイエンティフィック

木村英樹 1992「中国語指示詞の遠近対立について—『コソア』との対照を兼ねて—」『日本語と中国語の対照研

究論文集（上）』くろしお出版

梁 慧 1986 「『コ・ソ・ア』と『这・那』」 『都立大学方言学会会報』116

牧野美奈子 1993 「中国語の指示詞とテキスト」 『中国語学』240

坂田雪子 1971 「指示詞の『コ・ソ・ア』の機能について」 『東京外国語大学論集』21

讃井唯允 1988 「中国語指示代名詞の語用論的再検討」 『東京都立大学人文学報』198

正保勇 1981 「『コソア』の体系」, 『日本語の指示詞』 国立国語研究所

吉本啓 1992 「日本語の指示詞コソアの体系」 『日本語研究資料集 指示詞』 ひつじ書房

徐丹 1988 「浅談这／那不对称性」, 『中国語文』1988年第2期